

地域サポーターの取り組み

しあわせにふる里に生きるために

医療法人 清和会 長田病院
緩和ケア認定看護師
石橋 あかね



長田病院の所在地



福岡県南部 柳川市 人口 68,048人 (2016/8)

◆65歳以上人口比率 全国 26.2%

柳川市 31.2%



柳川市

有明医療圏



医療法人清和会



三橋長田医院



長田病院

訪問看護ステーション
花水木



介護老人保健施設
シャンティ

Happiness
しあわせ

Hope
希望

Health
健康

Heart
やさしい心



長田病院 地域ケアステーション
クローバーハウス



グループホーム
つくだ

住宅型有料老人ホーム アイリス
認知症対応型デイサービス からたち
ヘルパーステーション 椿
長田病院ケアプランサービス



当院のテーマ

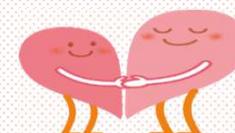
「しあわせにふる里にいきる」
ための

柳川バージョン
地域包括ケアシステムの構築

ご当地
システム



ご当地
キャラクター
こっぽりー



柳川市の特徴（私見）

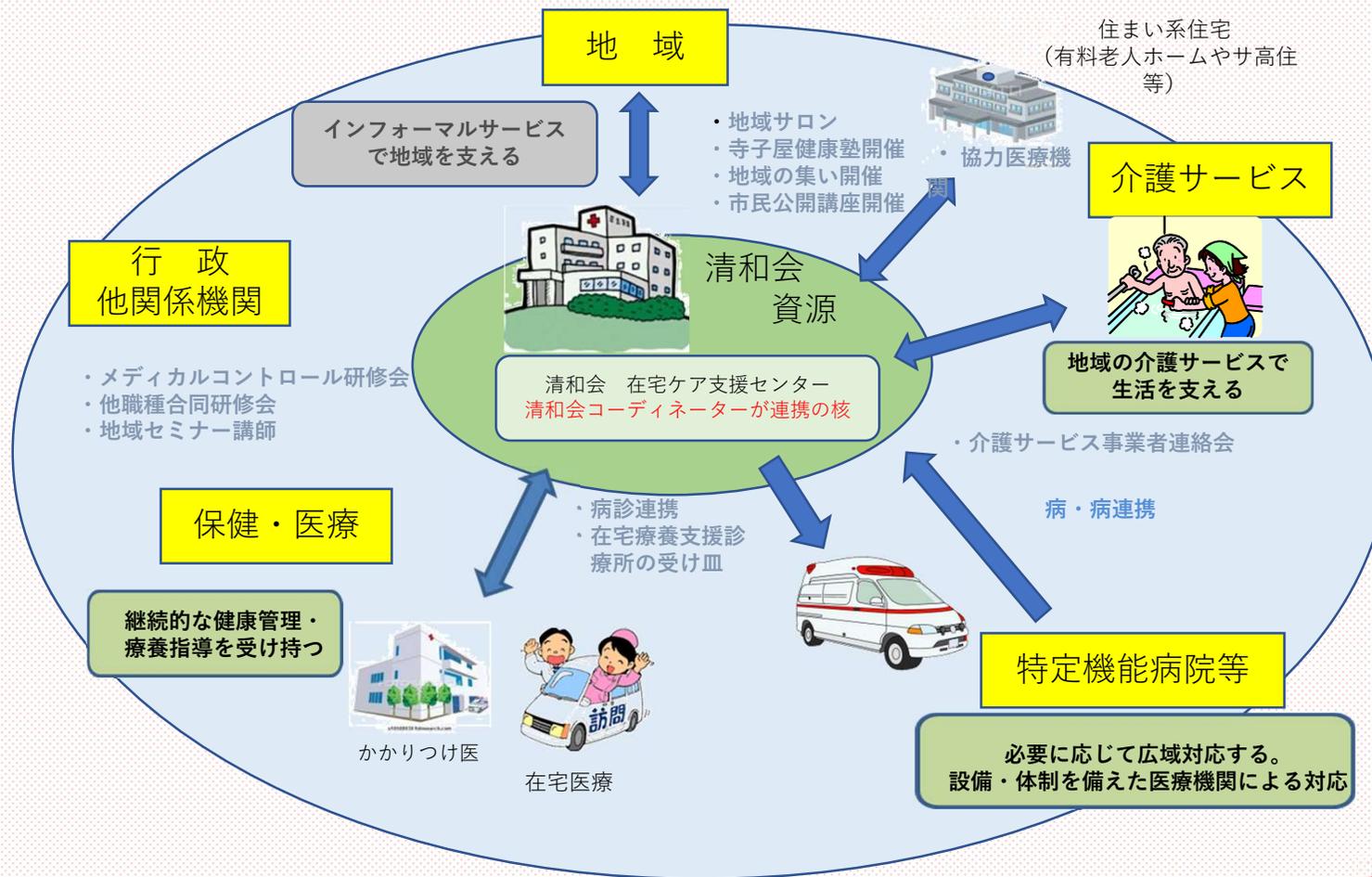
- 校区（通学区域）でのつながりが強い
 - 校区内で運動会が開催される
 - 隣組システムが機能している
- などなど



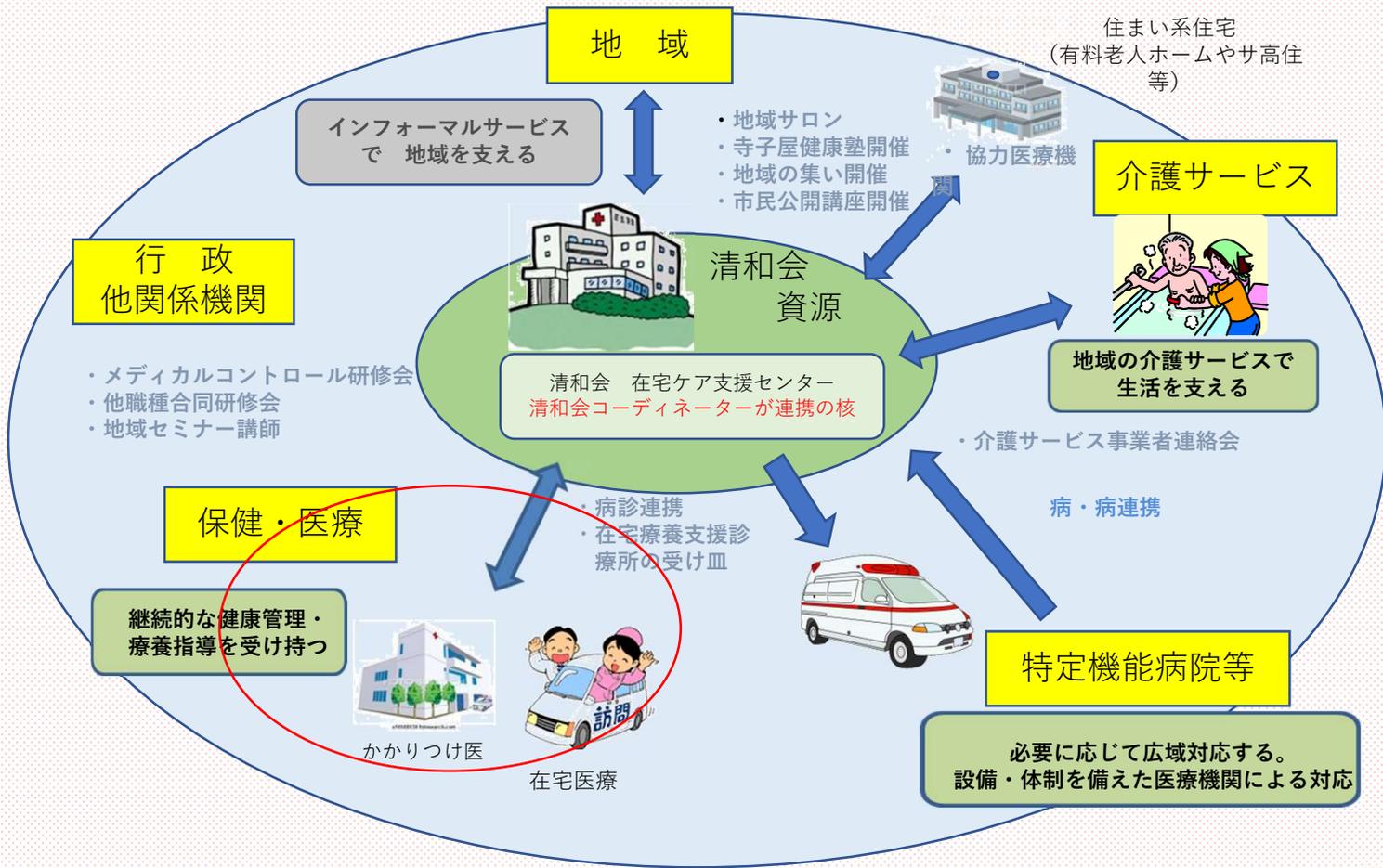
地域の繋がりが強い

柳川モデル地域包括ケアシステムの概要図

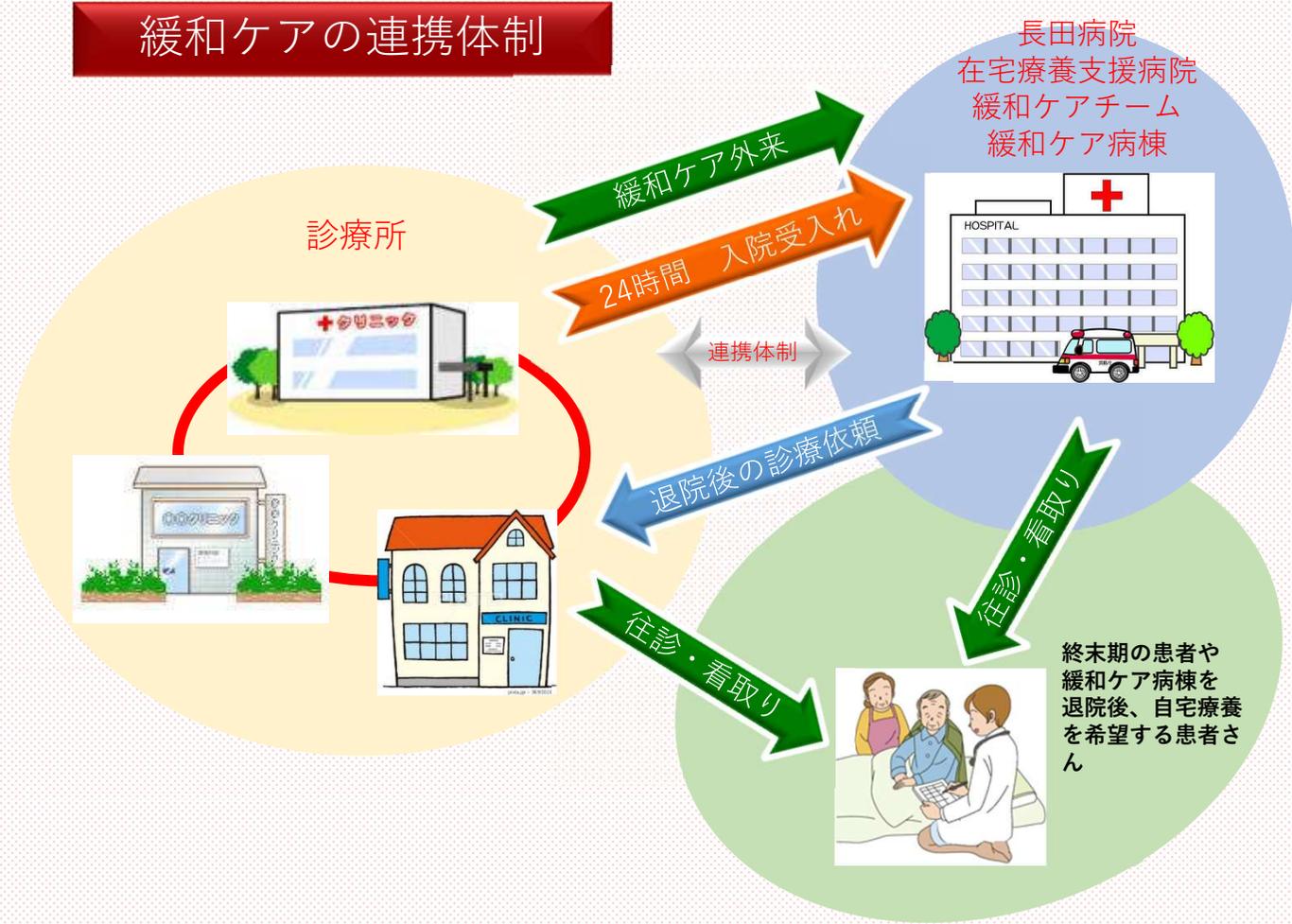
(日常生活圏域 (30分以内で駆け付けられる領域))



柳川モデル地域包括ケアシステムの概要図 (日常生活圏域 (30分以内で駆け付けられる領域))



緩和ケアの連携体制



2013年 10月 在宅診療開始



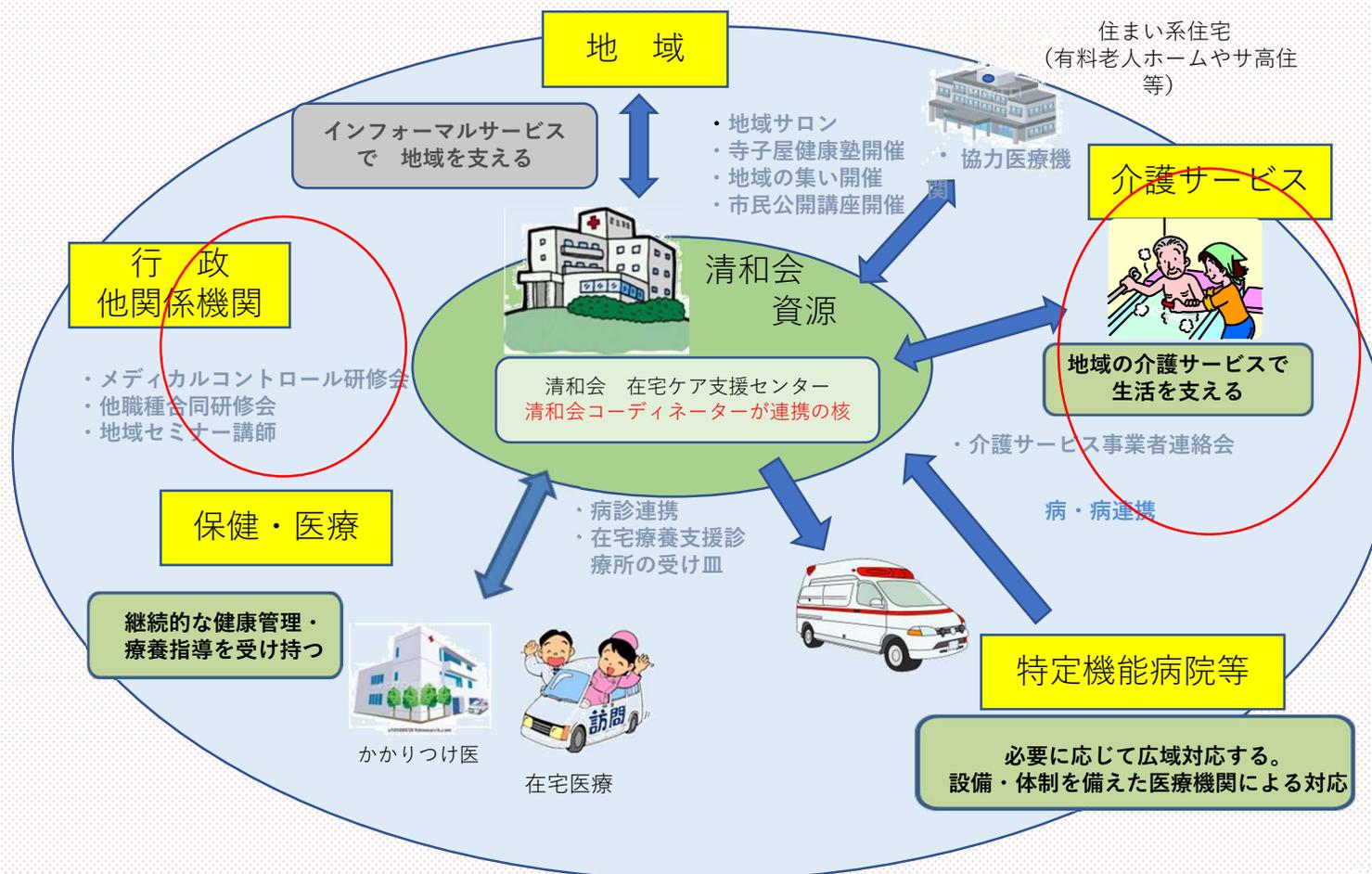
どこにいても緩和ケアが受けられる

- 緩和ケアチームで在宅緩和ケアを支援。
- 緩和ケア病棟がバックベッド



柳川モデル地域包括ケアシステムの概要図

(日常生活圏域 (30分以内で駆け付けられる領域))

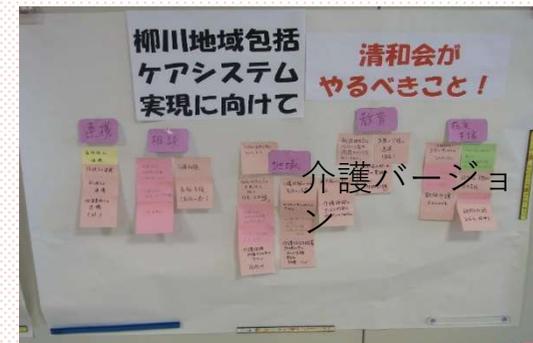
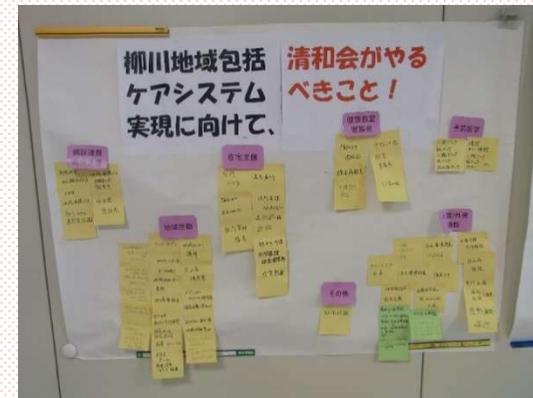


取り組み

清和会は、医療介護の分野に責任を持つ

- (ア) 地域の医療・介護の資源の把握
- (イ) 在宅医療・介護連携の課題と抽出の対応策の検討
- (ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進
- (エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援
- (オ) 在宅医療・介護関係者に関する相談支援
- (カ) 医療・介護関係者の研修
- (キ) 地域住民への普及啓発
- (ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

医療バージョン



医療・介護関係者の研修



効果：

- 1) 地域の医療機関へ逆紹介がしやすくなった
(逆紹介を推進)
- 2) 勉強会や事例を通して気軽に連絡・相談ができる関係が構築されてきている。



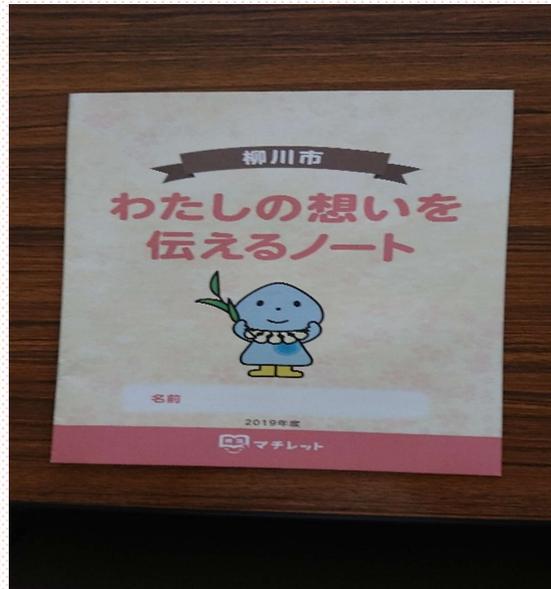
行政との連携

水郷柳川ゆるり旅

長田病院健康ステーション



地域包括支援センターと連携 エンディングノートの普及

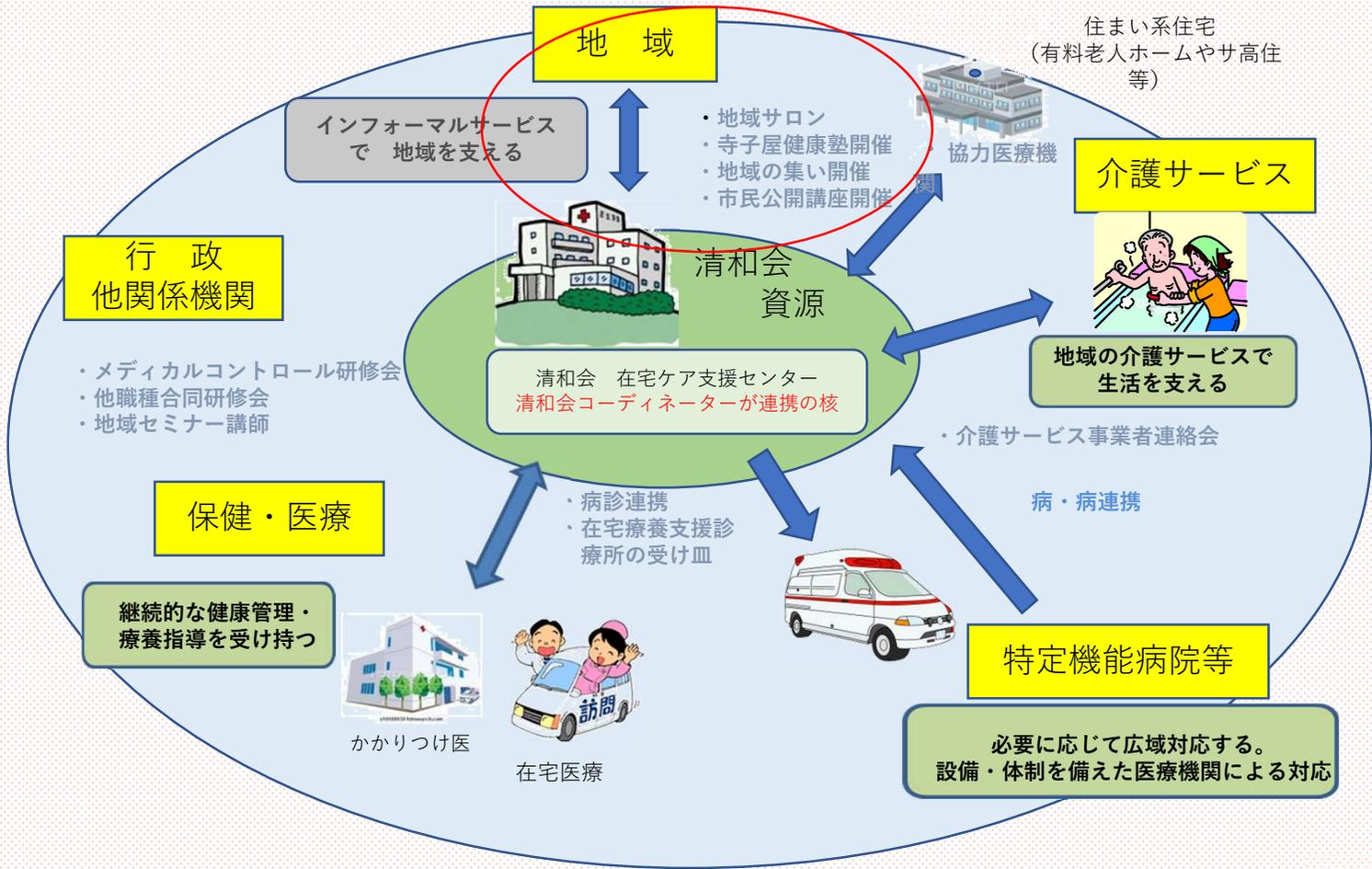


- エンディングノートを普及させ自分の最期を考える機会をつくる。
- 自分が望むところで最期を過ごすことができるように地域緩和ケアを推進する。
- 病院でも介護施設でも自宅でも同じ緩和ケアが行えるようなシステムを構築していく。



柳川モデル地域包括ケアシステムの概要図

(日常生活圏域 (30分以内で駆け付けられる領域))



地域住民への普及啓発-①

1. 地域サポーターの育成

1) 清和会認定地域サポーター制度を制定

1期生「ローズの会」 8名

2期生「ゆりの会」 7名

3期生「ふじの会」 9名



制度創設目的

この制度は、認定された地域サポーターが、地域で、健康や介護問題で困っている方々に対して、行政や医療機関、介護事業所との懸け橋となっていただくこと。また、地域支え合いの活動の担い手として、段階的なスキルアップを図りながら、継続的な地域活動を推進していただくことを目的とする。

認定指針

①【必修】

1. 地域サポーター認定カリキュラムに沿った研修を修了
2. 地域懇談会へ年2回以上の参加をされている

②【3. 4. 5のいずれかの実績のある方】

3. 地域支え合いの活動に参加されている
(自主的な活動も含みます)
4. 当法人内外のボランティア活動を経験されている
5. 地域住民に向けて、地域支え合いの活動やボランティア体験談の講話をされたことがある。

※①の必修に加えて、②のいずれかの実績のある方が対象となります。



地域住民への普及啓発 ②

地域懇談会を開催する。

目的:超高齢社会を目前にして「今、我々がすべき事、私たちに何が出来るか」をテーマに地域の皆さんと共に考え、行動に移すことを目的としている。

実績:①平成26年7月より開始。

- ②第6回目より、地域サポーターの皆さんが主催者となる。清和会は後援者として支援する。

地域へバトンタッチ！

- ③サロンを立ち上げる(平成27年11月6日開所)
④地域との共同イベントを開催する。

柳川ゆるり旅開催

- ⑤地域サポーターのモチベーションが向上してきた。
⑥地域サポーターの希望者が増えている。



地域懇談会

年3回開催予定



緩和ケア棟喫茶

毎週水曜日（14：0～16：00）開催



地域サロン“かっちえる”開所

開所日：平成27年11月6日

運営曜日および時間：毎週火曜日・金曜日 10：00～16：00

定員：女性限定 10人

登録ボランティア：10人

会員：毎月1000円＋利用日250円（食事代）



有明新報

THE ARIAKE SHIMPO

有明筑後版

平成28年(2016年)

8月20日

土曜日



「かっちえる」で楽しむお年寄りたち

柳川市下宮永町の空き家を活用してサロンを開設し、地域でお年寄りを支える取り組みが注目を集めている。市食生活改善推進会役員を中心に地域の人がボランティアで参加し、15人ほどのスタッフが運営。「地域を支え合いを合言葉に活動が続いている。

空き家活用し憩いの場 「かっちえる」 地域でお年寄り支える

柳川

このサロンは平成26年11月に近くの長田病院が主催した地域懇談会に参加した人たちが長野県の地域ボラ

ンティアの話を聞き、自分たちも「何かできないか」と考え、準備して1年後に開設した。

高齢化社会を迎え、ひとり暮らしや引きこもりのお年寄りが増え、そのよちな人たちに外に出してもらい、いろいろな交流を深めようと、元氣になってもうのが狙い。認知症予防にもなるという。また、民家で行うことで、自分の家にいる感覚で楽しめるという。

サロンの名前は「かっちえる」。「仲間に入れる」の意味である「かたむく」から名付けられた。代表は平野順子さん。親戚が海外移

住したことで、空き家になったところをサロンにした。木造の階建てで1階部分を使っている。毎週火曜日と金曜日の午前10時から午後4時まで。厚食代は自分持ちで会員制。

「自分で来て、自分で帰る」が原則で、出入りは自由。会員は63歳から89歳までの12人。長田病院が血圧測定など行う健康チェック、月に1回の健康講座、河田由紀子さんのアロママッサージ、元中学校体育教師の田中房子さんの健康体操などをを行い、手芸として折り紙やきりもんの作りをしていて、作品を販売。

スタッフは「皆さんがここに来るのを楽しみにしています。やがて1年、11月にはお祝いをしたい」と話している。

(小原 郁夫)

活動の実際

- A氏 80歳代 男性 2年前に肺がんと診断
- 妻と2人暮らし
- 妻は地域サロン(かっちえる)に参加されている。A氏も野菜の差し入れなどで地域サロンに出入りされていた。
- 抗がん剤を継続していたが体力の低下に伴い歩けなくなり1か月前より中止となった。
- 急激な衰弱と痛みが出現。混乱や意識障害があり本人、家族ともに困惑されていた。





全身痛い。頭が混乱している。体が動かない。このまま家にいたい。入院は嫌だ。緩和ケア病棟にはお世話になりたくない。

お父さんが違う人みたい。私一人では介護は難しい。とりあえずサロンはお休みしよう。



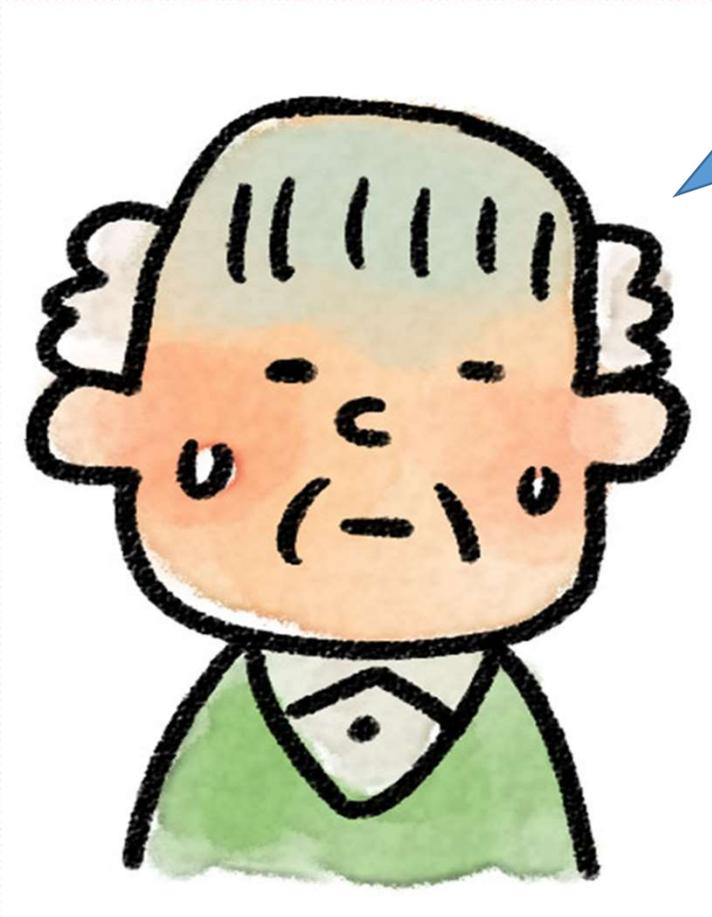
地域サポーターの活動

- サロンに参加されない妻をサロンの仲間（地域サポーター）が訪問し家族が困惑している現状を長田病院へ相談。緩和ケアチームで支援することに決定。
- 寺小屋健康塾や市民公開講座で緩和ケアについて学んでいるサロンの仲間が緩和ケアについて説明
- 緩和ケア病棟でボランティア活動をされている地域のかたが緩和ケア病棟について説明。



緩和ケアチームがコーディネーターとなり
地域サポーターの方をパートナーとした。





家に帰れる約束なら、1週間だけなら入院する。痛みを軽くしてほしい。みんなが進めるから緩和ケア病棟に入院する。



これからのことを教えてください。



在宅でのサポート体制を構築

- 月：訪問看護ステーション
- 火：訪問診療
- 水：地域サポーター（インフォーマル）
- 木：訪問看護ステーション
- 金：地域サポーター（インフォーマル）
- 土：緩和ケアチーム
- 日：訪問看護ステーション



無事退院



やっぱり家がいい。先生たちが家に来てくれるなら安心。また入院するときはお願ひします。母ちゃんも心配なので最期は緩和ケア病棟に頼みます。



お父さんの笑顔がうれしい。家で一緒に過ごしてみます。サロンにも気分転換にいきます。



切れ目のない緩和ケアを目指して

- 日ごろからの地域とのつながりが重要になる。
- 緩和ケアを日ごろから考えられる環境づくりが必要
- 病院が地域を応援する病院として機能する。
- 自宅でも外来でも、入院しても施設に入所しても知っている顔が見れる活動を継続する。

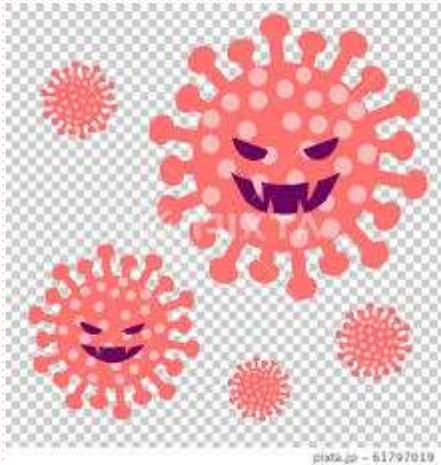


まとめ

がんであっても「しあわせにふる里に生きる」を支援するビジョンのもと地域の方の力も借りながら地域緩和ケアを推進する。

- 治らない病気であるからこそ支えあう地域が必要。孤立させない。
- 「なんでも相談窓口」を機能させなんでも相談を受ける。





知らないうちに、拡めちゃうから。



STOP!
感染拡大
— COVID-19 —

新型コロナウイルス
流行



新型コロナウイルスに負けない ①

- 新型コロナウイルスについて学ぶ。
 - 地域サポーターの方と新型コロナウイルスについて学ぶ。
 - 日常生活でも意識してもらうことで不安解消と健康を維持。
- 10月よりボランティア活動再開。
改めて地域の方の力を感じる。
- 「生き返った・・・」



病棟が活気づく。スタッフが久しぶりに感じた日常。



新型コロナウイルスに負けない ②

- 新型コロナウイルスをテーマに地域の公民館で講演



ご清聴ありがとうございました。

やながわにおいでませ。

